



ばらばらで一緒

～美香保中だより～

発行 札幌市立美香保中学校

住所 東区北17条東6丁目1-1

電話 (011)-711-8151

キャリア学習の日を行いました

本校では、11月に「キャリア学習の日」を設定し、地域の事業所、企業の協力のもと、生徒一人一人が自分の課題に向き合い、将来の自分の姿を思い描きながら学習を進めています。特に、2年生は、「1日職場体験」として多くの地域の方のご協力のもと、少人数のグループに分かれ、企業やお店、事業所で業務を体験させていただき、「働くこと」の意義や価値について学びを深めています。ご協力いただいた地域の皆様に感謝を申し上げます。今後は生徒一人一人が自分の課題に対して考えをまとめ、プレゼンテーションを行い、学びの成果を交流する予定です。



【1年】『職業調べ』

職業適性検査の結果や自身が将来就きたいと考えている職業について調べ学習を行いました。書籍やクロムブックを用いて調べ、その職業になるために必要なことやその職業のやりがいなどをレポート用紙にまとめました。

【2年】『将来の自分(職業体験学習)』

生徒が自分の関心ある職業のジャンルを選び、25の事業所、企業、店舗などで1日職場体験を行い、「働くこと」について貴重な体験と深い学びをさせていただきました。

【3年】『私たちがつくる社会』

生徒一人一人が関心のあるSDGsの17の目標の達成のために啓発活動などの社会参画を行います。キャリア学習の日には、準備としてオンラインでのインタビューなどの情報収集や活動に使うポスターや絵本などの作成を行いました。

【5組】『高校見学』

11月13日(水)に、新篠津高等養護学校へ見学に行ってきました。学級全体で高校を訪れるのはコロナ流行後、今回が初めてでした。寄宿舎や校舎、6つの作業学科の学習の様子を見学させていただきました。寄宿舎の生活では、「人間関係づくり」が一番大変であり、それに加え、洗濯や片付け、掃除など「自分のことは自分でする力」も大切であると教えていただきました。園芸科、家庭総合科、窯業科、木工科、生産技術科、クリーニング科の見学では、高校生の皆さんが1つ1つ丁寧に説明してくださり、各科で取り組んでいることや大変なことなどを教えてくれました。窯業科からは全員にお皿のプレゼントをいただいています。学校に戻ってきた後は、それぞれ自分の思ったこと感じたことをすぐにレポートにまとめています。今回の見学で学んだことを今後の進路選択に役立ててもらいたいと思います。

生徒作文

合唱コンクール

5組 北 唯人

11月1日金曜日に、札幌サンプラザホールで合唱コンクールが行われました。5組はCOSMOSを歌いました。

自分は今年度、指揮者に立候補しました。去年の先輩に、来年度は指揮者やってみたら？と声をかけてもらい、興味が湧いて、やってみたいと思ったからです。練習を始めた時は指揮の動きが乱れてしまい、みんながどのタイミングで歌えばいいのかわからなくなってしまったことがあって、このままじゃまずいと思って毎日コツコツ練習をしました。何度も練習を積み重ねることでみんなのタイミングが合うようになりました。指揮の形も段々と安定してきて、最後の歌の終わりのところの手の動きも最初は苦戦しましたが、できるようになりました。

本番は、緊張しすぎて体が硬くなりました。指揮も最初から早くなってしまいましたが、5組のみんなと伴奏の小林先生が合わせてくれて無事に演奏が終わりました。練習を始めたときに難しかったタイミングは合わせることができたと思います。終わった後に、5組の先生と音楽の木下先生が褒めてくれてちょっと安心しました。そして、その後に特別金賞を取ることができて安心しました。

今回の経験で、自分は本番すごく緊張することがあるんだなと知りました。そういう時に自分自身で緊張を和らげるためにどういう対応をすればいいのかこれから考えていきたいと思います。この後、12月6日に5組パーティーがあります。これまでの自分を振り返って、みんなが楽しめる行事にしたいと思っています。

生徒作文

合唱コンクールを終えて

1年 佐藤 穂実

私は合唱コンクールでの経験を経て、大切だと思ったことが2つあります。

1つ目は、「友達と協力して何かをやり遂げる」ということです。いつも授業中や昼休みにはふざけたりしてうるさいクラスなので、練習のときも大変だろうと思っていました。しかし、音楽の授業や放課後の練習になるとみんな真面目に取り組み、とても嬉しく感じました。自分のパートへのアドバイスではなくても真剣に聞き、やってみようという姿勢があって、みんなでいい練習ができたと思います。

2つ目は、「諦めないで前向きに挑戦してみる」ということです。小学校のときから合唱コンクールの伴奏をやるのが夢で、今年伴奏ができてとても嬉しかったです。練習をしているときに周り自分と比べてしまって、合唱コンクールに出たくないと思ったこともありましたが、しかし、周囲の人が「上手だよ」と言ってくれて、すごく嬉しくてやる気も増し、諦めないで練習してよかったと思えるようになりました。合唱練習の時間もクラス全員が諦めずに練習ができてよかったです。

合唱コンクール当日、金賞は取れなかったけれど、いつもよりクラスみんなとたくさん協力ができ、思い出もいっぱいできたので全員が金賞だと思っていました。

生徒作文

合唱コンを通して学んだこと

2年 安達 紗良

合唱コンクールを終えて私が思ったのは、「合唱ってすごいな」ということです。歌が好きな人もいれば、嫌いな人もいて、得意な人もいれば、苦手な人もいます。そんな中で、それぞれ声だって違うのに力を合わせてきれいなハーモニーをつくっていく。それは困難もあるかもしれないけど、すごく素敵なことだと感じました。歌を歌い終わってステージから降りたときに、楽しかったと感じたことやサンブラザでこのクラスの歌声を響かせることができたのがうれしく思えました。それは私たちが去年の反省を生かし、協力して練習してきたからこそだと思います。私は今回の合唱コンクールと自分なりに向き合ってきたつもりです。家で練習したり、アドバイスを意識して歌ったりと、歌が得意ではない私だけど、頑張っている人の足手まといにならないようにできたと思います。様々な助言をしてくれた先生方、学級をまとめ引っ張ってくれた指揮者・伴奏者の方々、パートの課題を解決しようとしてくれたパートリーダー・サブリーダーの方々、そして、切磋琢磨し、助け合い、一致団結して練習してきた2-3のみんながいたからこそ、練習の日々を思い出したとき、私は一生懸命になれて良かったと思えるはずです。惜しくも金賞には届かなかったけれど、個人的には1組とは僅差だったのではないかと思います。

当日、発表を聞いて特に心に残ったのは、1年2組の「カリブ夢の旅」や3年生の「大地讃頌」、2年1組の「YELL」です。どの合唱も歌詞の伝えたいことを表現し、自分を信じて自信をもって歌えていると感じました。また、5組や3年生の学年合唱の指揮者はすごく上手で、努力したんだなと思ったし、自分のクラスの伴奏も上手だと思いました。

合唱は好きな曲じゃないかもしれないし、努力しても金賞は取れないかも知れないけど、クラスの絆を深め、素晴らしい経験が得られるからこそ、合唱をする価値があるのではないかと思います。来年は、今年の3年生を越える感動を届けられる合唱にしたいです。

生徒作文

合唱コンクールの思い出

3年 井上 雪舞

私は歌うことが得意ではないので、初めは合唱コンクールという行事に抵抗がありました。歌うことに何の意味があるのかわからないまま、ただ言われたとおりに練習に取り組むだけでした。朝練習にも遅れてしまうことが多く、真剣に練習に取り組むことができていませんでした。ですが、他のプロジェクトのみんなは練習やクラスみんなと向き合うことに真剣で、「どうしたら全員が真面目に練習してくれるか」をしっかりと考え、工夫しながら練習を進めていました。そんな姿を、プロジェクトメンバーの一人として近くで見ていくうちに、「私ももっと頑張らなくては…」と思うようになりました。プロジェクトのみんなと、放課後に何度も話し合い、練習の工夫をしていくうちに、クラスがだんだんとまとまっていきました。最初は合唱に抵抗があった私でしたが、「もっと歌いたい。」「もっと練習したい。」と思えるようになり、いつの間にか合唱コンクール当日が楽しみになっていました。

3年1組は、当日までに何度も交流会を行いました。1年生、2年生の合唱からは、合唱に向かう姿勢や、歌声の素晴らしさを学ぶことができ、とても感謝しています。また、当日の2年生、1年生の合唱も素晴らしく、「最上級生として、1、2年生以上の合唱にしなければ…」というやる気にもつながりました。本番では、交流会の成果もあり、これまでで一番良い合唱にすることができたと思います。

この合唱コンクールという行事を通して、クラスで団結することができ、より絆を深めることができました。合唱は、みんなで歌うことに意味があり、みんなが目標に向かって心を一つにすることが大切なのだと気付くことができました。この合唱コンクールを通して、自分自身も大きく成長することができました。この成果を忘れずに、残りの中学校生活も、学級・学年の仲間と協力しながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果

令和6年4月18日（火）に3年生を対象として行われた「全国学力・学習状況調査」の結果と、それらを踏まえて本校で分析した結果をもとにまとめた課題と改善の方向性についてお知らせいたします。

	本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
中学校 国語	＜知識及び技能＞ □言葉の特徴や使い方に関する事項 ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 □情報の扱い方に関する事項 ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。 □我が国の言語文化に関する事項 ・ 全国平均を下回っている。 ＜思考力、判断力、表現力等＞ □「話すこと・聞くこと」 ・ 全国平均を上回っている。 □「書くこと」 ・ 全国平均を下回っている。 □「読むこと」 ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	●言葉の特徴や使い方などの表現の技法について、理解すること。 ●行書の特徴を理解すること。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にして書くこと。 ●表現の効果を考えて描写するなど、自分の文章が伝わる文章になるよう工夫すること。 ●文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えること。 ●短歌の内容について、描写を基に捉えること。	○詩、俳句、短歌等の韻文に関する表現技法を理解し、効果的に使用する指導の充実。 ○毛筆（行書）に関する指導の充実 ○書くことにおける情報収集、情報整理、資料引用に関する指導の充実。 ○語彙量を増やすとともに、ことわざ、慣用語、故事成語、四字熟語、和語、漢語、外来語を理解し効果的に使用する指導の充実。 ○論説文教材における筆者の主張と論理の展開を捉える指導の充実。 ○短歌における内容理解、鑑賞、創作に関する指導の充実。
中学校 数学	□数と式 ・ 全国平均を下回っている。 □図形 ・ 全国平均を下回っている。 □関数 ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。 □データの活用 ・ 全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。	●式を目的に応じて変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成立する理由を説明すること。 ●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。 ●1次関数について式とグラフの特徴を関連づけて理解すること。 ●与えられたデータから最頻値を求めること。	○「数と式」及び「図形」の領域において、特徴を的確に捉え、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるよう指導の充実。 ○物事を整理し、要点を的確に捉え、事象を数や式を用いて考察する指導の充実。 ○データを的確に整理し、代表値に目を向けることで、そこからどんなことが読み取れるか、予想できるかを考察し、表現できるよう指導の充実。

「国語が好きである」、「国語は大切である」、「将来国語での学習が役に立つ」と考えている生徒が全国平均を上回っています。「理科が好きである」、「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり、問題を見出したりすることができる」と考えている生徒が全国平均を上回っています。英語においても、「スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を発表する機会がある」について全国平均を上回っています。学校における学習を将来の自分や身のまわりにつなげることができる学びを、今後も意識して進めていくことが大切であると考えます。

本校の概要	今回の調査における課題	改善の方向
学ぶ力 ☐「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 時間以上学習する生徒」の割合は全国平均を下回っている。 ☐「自分とは違う意見について考えるのは楽しいと思う」では、肯定的な考えをもつ生徒は全国平均を上回っている。 ☐「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」、「学習した内容について、分かった点や、よく分かった点を見直し、次の学習につなげることができている」では、全国平均を下回っている。 健やかな体 「放課後や週末にスポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をして過ごすことが多い」生徒の割合は、全国平均を下回っている。 豊かな心 ☐「自分には良いところがあると思う」、「将来の夢や目標をもっているか」では、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。 ☐「人の役に立つ人間になりたいと思う」では全国平均を上回っている。 ☐「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」では、全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。 ☐「人が困っているときは、進んで助ける」では、全国平均を下回っている。 ☐「地域や社会をよくするために何かをしてみたいと思う」では、全国平均とほぼ同程度だが、やや上回っている。 一人一台端末の活用 ☐「1、2 年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を週に 3 回以上使用している」では、全国平均を上回っている。 ☐「1、2 年生のときの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することは、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」では、全国平均を上回っている。 ☐「1、2 年生のときの学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を活用することは、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」では、全国平均を下回っている。	☐平日・休日における学習習慣を身に付けること。 ☐学習の成果や課題を生徒自身が認識し、学習のつながりを意識して、粘り強く取り組むこと。 ☐体を動かすことの意味や価値について理解していることを実際の行動につなげていくこと。 ☐「人の役に立つ人間になりたい」、「いじめはどんな理由があっても許すことはできない」という思いを実際の行動につなげていくこと。 ☐協働的に学びを深めるために ICT 機器を効果的に利活用すること。	☐テスト前の計画づくりだけでなく、教育相談などで学習習慣の定着に向けた働きかけと、持続して学習に取り組むことができるような支援の充実を図る。 ☐「粘り強く挑む力」を育成するために、総合的な学習の時間を核として、各教科における単元のつながりや教科間、学校行事等を関連付けたカリキュラムを重視する。 ☐引き続き、「美中オリンピック」や昼休みの体育館、グラウンド開放など、授業以外でも体を動かす機会学校全体として増やしていき、運動に親しむ機会のさらなる創出を図る。 ☐学習や行事など様々な場面で達成感や成就感を感じたり、お互いに認め合い、尊重したりする経験を積み重ね、自分のよさを実感し、自己存在感をさらに高めることができる教育課程の工夫を引き続き進める。 ☐コミュニティ・スクール（CS）を導入して、生徒の自治的な活動を地域社会につなげ、子どもまん中の教育活動を実践する場面の創出を図る。 ☐生徒個々が主体的に探究を進める中で、自ら必要感をもって協働的に学べるような授業展開を工夫し、効果的な ICT 機器の利活用を図る。

「学校に行くのは楽しい」と思っている生徒が全国平均を上回っており、生徒が学び、活躍する居場所として学校が一定の役割を果たすことができていると考えます。また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表している」では、全国平均を上回り、自分で考え、解決する方策を立て、課題解決に向かうことができる生徒が増えています。

朝食や就寝・起床時間、スクリーンタイムなどの生活リズムが乱れている生徒が全国平均よりも多い傾向です。特にゲームや SNS、動画の視聴時間は全国平均を上回っており心配しています。子どもたちの学ぶ力、健やかな体、豊かな心をバランスよく育むことができるよう、ご家庭でもお子様の規則正しい生活習慣の定着にご協力をお願いいたします。